

1 市長への手紙

市民一人ひとりのご意見やご要望、ご質問を市ホームページからのメールや手紙を通して伺っています。お寄せいただいた「市長への手紙」は、まず始めに市長本人が目を通し、担当課へ指示を出すことにより問題の解決を図っています。



2 要望事項の受け付け

平成 18 年度実績 234 通

自治会など、各種団体から公共性の高い要望を受け付けています。特に、道路をはじめ側溝や街路灯の整備についての要望は、各自治会を通して市へ要望書を提出していただくことにより、順次対応しています。



3 市長対話会

平成 18 年度実績 出席者 2,603 人

潜在的な要望や意見を把握するため、市長自らが学校や公民館に出向き、意見を伺っています。この対話会の対象は企業をはじめ、学校や公共施設利用団体など多岐にわたります。



あなたの声を 市政に反映

—理想の深谷市を目指して—

市では、市民の皆さんの声を市政に反映させるため、さまざまな方法で皆さんのご意見やご質問を伺っています。

より良い市政運営のためには、あらゆる視点からのご意見が必要です。「深谷市をもっと良くしたい」その気持ちを市政に反映してみませんか？

安全安心福祉のまちづくり

☆ 深谷の未来に明るい光 ☆ 市長にズバッと子ども議員たち

平成19年度子ども議会が、8月6日市役所本庁舎3階本会議場で開催されました。子ども議会は、市の将来を担う子どもたちが、まちづくりについて考え、意見を発表する体験を通して、市政への関心を深めてもらうとともに、子どもたちの純粋な意見や幅広い要望を市政運営の参考とするために、毎年夏休みに開催しています。

小学生の部



各小学校から1人ずつ選ばれた19人が参加しました

中学生の部



各中学校から2人ずつ選ばれた20人が参加しました

公園整備や交通安全、暑さ対策といった自分たちの学校生活に密着した問題から、地球温暖化やごみ問題、川の汚れなどの環境問題、これからのまちづくりへの提案、障害者のかたのための環境づくりなど多岐にわたる質問がされました。一人ひとりの質問に市長がコメントし子ども議員に、より深い意見を求めるなど子ども議員も気が抜けないといった雰囲気でした。

人のふれあいをテーマにした議論中には「大人の方があいさつができていない」との子ども議員の指摘に、市長が「確かにその通り、大人が率先してあいさつしなければならぬ」と、その場にいた職員を一喝するといった一幕もありました。

「朝のアイサツは 人より先に」これを一生続けることは、人として最低の義務というべし 森 信三

皆さんの意見は、
こんなとくろくに活かされています

「もっと勉強したい」
その気持ちにこたえて
明戸駅にスロープを

平成19年1月から市立図書館（岡部・川本・花園分館除く）では土・日曜日午後7時までの開館を行っています。これは「中学生との対話会」で一人の男子学生が提案したことが実現したものです。「図書館に通って勉強をしたいのですが、午後5時までの開館時間では充実した学習時間がとれません。開館時間の延長をしてほしい」

当初、人件費、維持管理経費の増加が問題になりましたが、生涯学習を推進する市として、市民の学習をサポートしなければならぬという思いから、実施することになりました。



完成したスロープ：秩父鉄道 明戸駅

スロープの付いた駅は、ベビーカーを押す人や重い荷物を引く人にも使いやすくなりました。